

< 仙台国税局長賞 >

私達の責務

会津若松市立第二中学校 3年 佐々木 優花

税金はなくしてはならない制度だと私は思う。最近、食材の値段が高く、「買い物のたびに出費がかさむ」と母がため息を漏らした。自分で買い物をすることがあまりない私にとって、母の言葉はピンとこなかった。そこで疑問を解決するため調べてみることにした。

一番多く目についたのは消費税についての記事だった。消費税はもともと安定した社会づくりのために導入された。3%から始まり今の10%まで増税された。私は、母のため息の理由と税金がマイナスにとらえられている理由が分かった。実際、増税が繰り返されてきた分、良いイメージを抱きにくいと思う。ではなぜ、消費税という制度が残っているのか。一般的に否定的な声が多い制度はなくなっていくはずだ。それでも残っているということは大きなメリットがあるのではないかと思い調べた。税金で支えられているものはいくつもあった。道路整備や医療支援、年金、学校や新しい研究や開発費など、さまざまところで税金が財源になっていた。

私は小学生のころ、足の病気にかかり2年間、定期的に病院に行く必要があった。MRIを使った検査や足底装具という自分の足に合った装具を作った。それらは高額だったと母から聞いた。中学生になると食物アレルギーで病院に行くことが増え、点滴治療を何度も受けている。しかし、思い返せば金銭面で困ったことは一度もない。それは税金が財源になっている「子ども医療費助成制度」があったからだと知った。

また、税金に助けられたのは私だけではなく父もだ。真夜中に突然、大量の吐血をした。すぐ駆けつけてくれた救急車。救急隊員の方が受け入れてくれる病院を探し病院に運んでくれたおかげで、今も父は元気で毎日過ごすことができている。日本では、119番にダイヤルすれば救急車が来てくれることが当たり前になっているが、外国を見ていると日本がいかに恵まれているかが分かった。日本の救急車は無料で迅速に

来てくれるが外国はそうではない。例えば、アメリカだと公的なものは一回呼ぶのに8万円から15万円かかる。民間の方は公的なものより安く済むが緊急走行ができない。私は、この違いに驚いた。

今の日本は少子高齢化が進み、納税者の数が減っている。しかし、反対にもっと豊かに生活できるようにと税が導入されるところは増えるだろう。そこで必要なのは、どこに目を向けていくかだと私は思う。なぜ税金はあるのか、私たちとどのように関わっているのかを一人一人が知れば、さらによりよい社会になると思う。政治の在り方も時代を経て変わるように、税金の在り方もより良いものにしていかなければならない。そこで税の在り方を変えていくのは若者である私たちだ。だからこそ、税について知り紡いでいかなければならない。それが私達の責務なのだ。